

区立隅田公園 再整備新設広場 愛称募集 区立隅田公園のあたらしい広場に名前をつけよう!!



区立隅田公園周辺の町会・商店会等で構成される北十間川水辺活用協議会では、来春整備完了予定の区立隅田公園南側広場の愛称を広く募集しています。

募集要項	
対象となる広場	区立隅田公園の広場(右図赤線枠内) 芝生広場・舗装広場あわせてひとつの名前を募集。
対象応募者	区立隅田公園を含む、北十間川周辺整備事業に興味のある方。
応募方法	下記墨田区公式ホームページからの受付。ネーミング案、氏名、住所、年齢、職業、連絡先を入力。 http://www.city.sumida.lg.jp/eventcalendar/sonota/sumidakouen_aisyomei.html
募集バ切	令和2(2020)年1月末(予定)、北十間川水辺活用協議会内に設置された選定委員会で審議し決定。
決定発表方法	令和2(2020)年3月28日(予定)の公園オープニングイベントにて発表。
記念品	応募者から抽選で素敵な記念品のプレゼントを予定。
問い合わせ先	墨田区企画経営室公共施設マネジメント担当 03-5608-1455

ネーミング対象となる広場(赤枠内)



戦略マップ制作中！(現在進行中)

現在、北十間川エリアの俯瞰的な把握を行なうツールとして、戦略マップを制作中です。
この戦略マップは、第1回賑わい創出部会(7月30日開催)で、エリアの回遊性を検討していくことを目的に事務局より提言し、制作しています。

この戦略マップ制作過程は、エリアの「現実」を正確に捉えることで、昨年度賑わい創出部会のワークショップを通じて検討した「理想像」とのギャップを認識する機会となります。このギャップの要因となっている課題を設定し、「理想像」に近付けるための具体的なアクションへとつなげていけると考えています。

例えば、右図のようなヒューマンスケール(人が人間の活動を視覚的に認知できる距離100mや人の表情を認知できる距離20mとして設定)に基づいたマップも戦略マップの一つです。そのヒューマンスケールに合わせた、エリア内のコンテンツ(飲食店、サービス提供店など)、ストリート(路地園芸、フットスポット、空き地空間など)の様々なレイヤーに展開することで、目的別の地域情報をマップ作成に役立てていきます。

この戦略マップを通じてエリアを俯瞰的・客観的に観測し、地域を総合的にとらえ、回遊性向上を戦略的に検討していく機会を作っていきます。



発行元：北十間川水辺活用協議会事務局：

これらの活動に興味がある方、質問、ご意見をお持ちの方は、
墨田区役所 企画経営室 公共施設マネジメント担当(03-5608-1455)までお問い合わせください



北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業の事業紹介サイト
URL http://www.city.sumida.lg.jp/sangyo_matidukuri/matizukuri/kasen_kyouryou/KitajukkengawaSumida.html



FACEBOOKページオープン！
日々情報を発信中です！
「すみだ北十間川周辺エリマネ準備チーム」



“まちを面白がってみる”、という視点



「北十間川の未来を面白がる会」が開催されました

令和元(2019)年11月10日(日)、「北十間川の未来を面白がる会」が開催され、区内外で北十間川に興味を持つ方々、25名が参加しました！この会は、北十間川水辺活用協議会の賑わい創出部会で、まちの資源・価値について理解を深める必要があるとの議論から、開催されたもの。幅広い参加者の「よその視点」での、このエリアの潜在的資源・価値の再確認・発掘を行いました。

参加者は4班に分けられ、それぞれに与えられたエリアを1時間半ほど、些細な事柄でも面白がる視点で歩き、「これは面白い！」と感じたものを写真に撮り、SNS(Facebookページ)で随時、共有しました。その後、各班の写真、その視点からまちの潜在的な魅力、課題を共有しつつ、来街者に面白がってもらうためのアイデアについて議論しました。

当日は好天に恵まれ、短時間であったものの、自分たちの足で面白がる視点でまちを歩くことで、まちの魅力・価値を新たな視点で再発見することができました。この会を通じて、普段の生活の中では、得ることのできない、新たな視点を持つことが大切だ、という参加者からの声がとても印象的でした。

参加者が見つけた面白い視pointsの例

「路地園芸」

北十間川エリアは来街者に対するコンテンツが不足している一方で、このエリアの生活者の能動的な活動により創出された「路地園芸(道路敷地に面した園芸)」にコンテンツとしての魅力を感じるという視点がありました。この良さを活かすために、「路地園芸コンテスト」をやってみようか、などの提案がありました。



「ストリートを楽しむ文化」

町会青年会の路上バーベキューに遭遇した参加者から、ストリート(街路)そのものを楽しむ文化に魅力を感じるという視点がありました。これを活かすようなストリートごとのアトラクションが生まれ、よそものを歓迎する雰囲気ができるという良いのではないかと提案がありました。



開業スケジュール紹介



現在、北十間川エリアでは、来春のまちびらきに向けて各整備工事が大詰めを迎えています。各施設の供用開始スケジュールは上図の通りです。令和2(2020)年3月の隅田公園供用開始を皮切りに、4月には枕橋～源森橋間の北十間川北側河川テラス、小梅橋、東武隅田川橋梁歩道橋(すみだリバーウォーク)が供用開始、4月以降に東武鉄道高架下店舗(東京ミズマチ)が順次供用開始、6月には墨22号コミュニティ道路の完成、源森橋～小梅橋間の北十間川北側河川テラスが供用開始します。隅田公園の大変身を祝して、3月28日には、地域向けの隅田公園オープニングイベント、4月には、墨田区・東武鉄道主催のメディア向けの北十間川周辺まちびらきオープニングイベントを開催する予定です。オープニングイベント以降も墨田区、民間事業者、地域の皆様とともに、北十間川周辺施設を積極的に活用し、エリアを盛り上げていきます！供用開始まで約3か月。お近くにお越しの際は、今しか見ることのできない工事中の現場をご覧ください。

イベント 出展 報告

すみだ川ものコト市～官民で考える北十間川の水辺の利活用の未来を紹介～

令和元(2019)年10月26日(土)に牛嶋神社・隅田公園で開催された第14回すみだ川ものコト市に北十間川水辺活用協議会が出展しました。すみだ川ものコト市は墨田区を代表するクラフトマーケットで、年に一度、秋に開催されています。前日は雨天で、当日の天候が心配されましたが、実行委員の開催への強い想いが届き、素晴らしい秋晴れに恵まれ、多くの人で賑わいました！協議会ブースでは、「北十間川・隅田公園観光回遊路整備事業」、「北十間川周辺公共空間の活用方針」についてパネルやモニター(賑わい創出部会のワークショップの様子)、「KITA JYUKKENGAWA PRESS Vol.1」を使って情報発信を行いました。合わせて今後の事業展開に向けたアンケート調査を実施し、アンケート回答者には「北十間川オリジナルうまい棒」をプレゼントしました。アンケートには269人もの方に回答いただきました。アンケートでは、整備事業についての認知度がまだまだ低いことが分かりました。一方で、整備内容をご理解いただくと隅田公園を是非とも利用したいという方が9割を超え、北十間川の将来に対する期待度が高いことが分かりました。隅田公園で何をやってみたいかという質問に対しては、「芝生でのんびりピクニックしたい!」、「子供と遊びたい!」、「散歩やランニングで利用したい!」などと日常的な利用ニーズが高いことが分かりました。これは、昨年策定した「北十間川周辺公共空間の活用方針」テーマの「水と緑のサードプレイス」に沿ったニーズであり、我々の検討の方向性が正しいことの確認もすることができました。また、すみだ川ものコト市出展者向けに行ったアンケートでは、6割以上の方が「整備事業を知ってこのエリアでの開業、新規出店に関心がある」という回答があり、北十間川エリアに対する関心の高さを確認することができました。出展に参加した事務局スタッフからは、「認知度がまだまだ低いという現状を確認しつつも、今回情報発信により様々な方に知ってもらうことができ、情報発信の重要性、手応えを感じた」などの意見がありました。今後も、区内外へ北十間川の魅力を情報発信していきます！



北十間川 水辺活用協議会 管理運営部会特集

北十間川水辺活用協議会の下部組織として、賑わい創出部会と管理運営部会があります。今回の特集は、管理運営部会です。管理運営部会は今年度、水辺の活用ルール、管理運営の部会として参画方針を検討している中で、五十畑部会長のもと、以下の活動をしています。

8/8 管理運営部会（日本橋船着場視察）

令和元(2019)年8月8日(木)の管理運営部会にて日本橋船着場の視察を実施しました。当日は、吾妻橋船着場から日本橋船着場までの乗船体験、日本橋船着場利用者協議会(以下、利用者協議会)のガイドによる日本橋周辺まちあるき、関係各所へのヒアリング、管理運営部会の検討事項についての確認を行いました。今回ヒアリングに御協力いただいたのは、日本橋船着場の管理者である「中央区水と緑の課」、利用調整や航行ルールについて協議を行う「利用者協議会」、利用者代表である「(株)東京湾クルージング」の3者です。日本橋船着場では、中央区から「名橋日本橋保存会」に管理業務を委託、利用受付や調整、承認などの窓口業務を実施していました。また、利用者協議会では、船着場利用者の協議会加入を必須とした上で、利用者間のスケジュール調整や利用促進、航行ルールなどに関する協議を実施していました。当日部会員からは、利用者協議会と名橋日本橋保存会による河川と陸地の連携と集客努力をしている点が良い、北十間川でも商業を含めた連携や高架下店舗を含めてエリアで回遊する仕組みづくりなどの必要性を求める意見がありました。その他、墨田区から隅田公園の芝生広場の整備状況や墨田区最大となる公園内トイレの整備について情報提供がありました。今後も様々な事例を参考にしながら、北十間川エリアに相応しい管理運営の方法を探っていきます。



10/2 第2回管理運営部会

令和元(2019)年10月2日(水)、墨田区役所にて、第2回管理運営部会を実施しました。当日は第1回の日本橋船着場視察の振り返りを行いつつ、水辺の管理運営における水辺活用協議会(以下、協議会)の役割、河川テラスの管理・運用ルールについて話し合いました。協議会の役割としては、準則特例占用が新たに発生する場合の審議を必須事項として、その他に準則特例占用者の活動計画の承認や活動報告の確認、会則に沿った環境保全活動、賑わい創出活動などを実施する方向性に決まりました。また、来年度開催予定の(仮称)北十間川周辺情報連絡会への参加も予定しています。河川テラスの管理ルールについては、自転車、ベビーカー、車椅子の通行の可否等について活発な意見が交わされました。一方、運用ルールについては、高架下店舗との調整や地域の人々が活用する際に必要なルール等、様々な主体を想定した議論が行われました。最終的には、令和2年度(来年度)を試験運用期間と位置づけ、その中で出てきた課題等を反映して最終案を作成する方向性に決まりました。主に管理ルールは安全安心の確保を前提に大枠のルールを定め、運用ルールはなるべく禁止活動を設けず、事案ごとに判断して事例を積み重ねる方針となりました。今後は12月中に役割、ルールの修正案を見直し、第3回の管理運営部会にて内容を確定していきます。



インタビュー：まちのあらたな魅力づくりのための、公共空間の管理運営方針を話し合う場をとりしきる 五十畑雅章 管理運営部会 部会長



Q管理運営部会の目的・内容について教えてください。

管理運営部会は、北十間川河川テラスの活用及び水辺の管理・運営について検討する部会として発足しました。昨年度は計3回の部会にて様々な事例研究を通した水辺の利活用や地域の関わり方について検討しました。そして今年度は、より具体的に河川テラスの運営における協議会の役割や参画方針、管理・運用ルールについて検討しています。具体的なか身が見えてきたことで、昨年度に増して活発な議論が行われています。

Q今年度の目標・今後の展望について教えてください。

今年度の目標は、協議会の河川テラスにおける役割や参画方針、管理・運用ルールを確定することです。これまでの議論を通して概ね方向性が見えてきたので、年度末に予定している第3回目の管理運営部会では役割やルールを確定します。そうは言っても、実際にテラスの運用が始まると様々なトラブルが予想されます。そこで来年度は試験運用期間と捉え、1年間河川テラスの活用を通して適宜体制やルールを見直し、事例を積み重ねながら再来年度の本格運用に備えたいと考えています。河川テラス整備後は、地域の人たちをはじめ、より多くの人に積極的に活用してもらいたいと思っています。ただし、利用者が増えればその分ゴミの増加や治安の低下など、課題も増えると思います。だからこそ、協議会が地域の代表として、水辺の良好な環境保全や恒常的な賑わいの創出に資するように尽力したいと思います。